

現在、少子化により県立高校を取り巻く環境も、PTAへの要求も変化している。「単位PTAのために」をスローガンに掲げて活動してきた就任2年目の松本会長は今何を考えるのか、そして高P連の目指す方向について聞いた。

— 昨年度から「単位PTAのために」というテーマで活動してこられたが、今年度目指したものは？

「みんなの役に立つ高P連、必要とされる高P連。みんなとは単位PTAの会員までということです。昨年度からそういうつもりでやってきましたが、それがうまく伝わらないと必要と思ってもらえないので、今年度はその点も意識しています。」

— 具体的には？

「つねに自分の言葉で丁寧に説明することを心掛けています。各大会での挨拶も「長い」と言われますが(笑)、高P連への理解を深めてほしいという思いからです。予定者研修にガイドブックを導入したのも同じ発想からで、形に残るもの、持ち帰れるものがあつた方が理解しやすいはずですから。」(2面に関連記事)

— 高P連の長期的な課題は？

「先に公表された県立高校改革実施計画によって学校数が減少します。高P連も10年先を見据えて、事業の整理・統合だけでなく、役員・会員の負担を軽減し、経費も削減して10年後も魅力ある高P連であり続けることです。」

— 現状のイベントは多い？

「全国の高P連の中でも神奈川ほどやっているところはありません。活発という見方もありますが、今後学校数、会員数が減少していく中で、経費面での負担も大きくなります。また現在でも高P連事業と地区大会

の日程重複などが発生しています。」

— 何かを止めるのは始める以上に大変では？

「止めるにも意味があるので抵抗はありません。全体としてどうあるべきか、何が必要かを考え、多くの会員に喜ばれることをやっていくだけです。単に何かをやめるのではなく、整理・統合して必要なコンテンツ、エッセンスは継承していきます。ただ、高P連の総会は6月で、単位PTAの予算や事業計画の決定後になるので、単年度での見直しは難しいです。」

— 短期的な課題は？

「みんなの意見を取り入れて、今やっている活動をさらに良くしていくことです。」

— 多くの会員の意見とは、どうやって取り入れるのか？

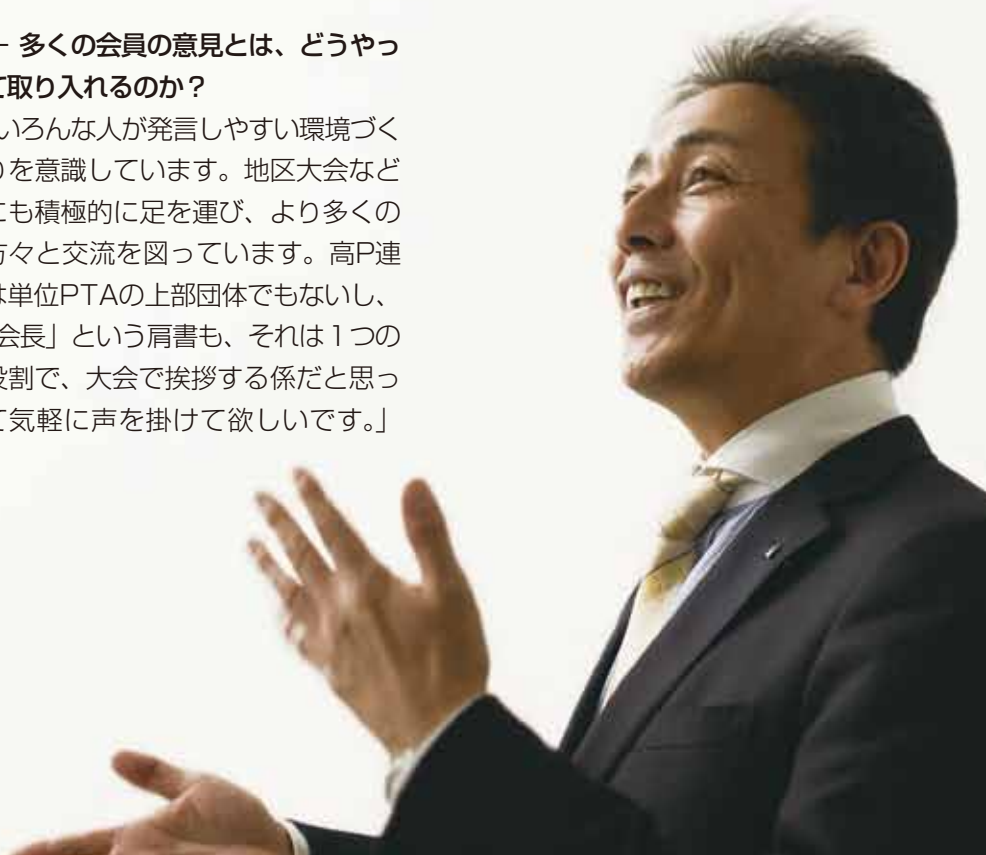
「いろんな人が発言しやすい環境づくりを意識しています。地区大会などにも積極的に足を運び、より多くの方々と交流を図っています。高P連は単位PTAの上部団体でもないし、「会長」という肩書も、それは1つの役割で、大会で挨拶する係だと思っ

— そうして吸い上げた意見が改革に向かわせている？

「改革をしているつもりはありません。多くの会員が望むことをやっているだけです。そのために、多くの方との交流は不可欠ですし、アンケートにはすべて目を通しています。皆さんの声が直接私に届くことは、本当にありがたいです。」

— 今年度の残りの期間にやりたいことは？

「今後に向けた準備ですね。皆さんから大切な会費をお預かりして運営しているので、事業、予算、組織、役員など様々な要素について現状の課題を整理し、10年先の方向性を見出したいと思っています。」



定期総会

形式よりも、わかり易さを
実現できた 高P連に対しての
理解深まる総会運営

平成27年度 高P連総会は平成27年
6月21日 パシフィコ横浜会議セン
ターにて開催された。

総会は、松本会長の挨拶でスター
ト。退任した単位PTA会長への感
謝状贈呈を挟んで、議事へと入った。

議案は通常の決算・事業報告、予
算案・事業案の承認の他、第2号議
案として役員増員の提案された。
これは現行3名の総務を、4名に増員
したいというもので、役員会の事務取
りまとめ担当部門の必要性と、平成29
年度に予定されている関東大会に備
えるというのがその理由である。

過去には、数字読み上げだけでは
わかりにくいとの要望が出ていた予
算決算については、今年度は会計担
当から、ポイントを絞ってわかり易
い説明がなされた。これは松本会長
の「時間がかかってもいいから、丁

会長研修

今年度の会
長研修は、

6月21日に定期総会と同日開催され
た。平成25年度、26年度は研修大会
の時に、会長分科会を設けていたが、
それ以前は総会後の実施だったので、
元に戻した形だ。研修大会で実施
すると、単位PTAの役員が一堂に
会す機会は提供できる。しかし総会
後に実施することで、PTA活動に日
数を取られがちな会長の負担軽減と
なる。だが、最も大きいのは、話し
合いのテーブルに校長にも入っても
らい、その豊富な経験を語ってもら
うことは、参加した単位PTA会長に
とってたいへん参考になるという点
だ。内容はいくつかランダムに選ん
だテーマに沿って他校の事例を聞い
たり意見交換という形を踏襲した。
しかし今回から高P連役員・理事が
ファシリテーターとなることで、各
テーブルで進行役や書記になった方
が、意見を言うタイミングを逃すこ
とも無いよう配慮がなされた。

平成27年度 定期総会 成立要件と主な承認事項

【出席者】

単位PTA会長	125名
各校校長	115名
役員・理事	20名
委任状	29通
合計	289名
(総会員数)	312名

【主な決議事項】

- ・H26年度 事業報告・決算報告・監査報告
- ・規約・細則の改正について（役員の増員等）
- ・平成27年度 役員選任
- ・平成27年度 活動方針及び重点目標
- ・平成27年度 事業計画（案）・予算（案）

	項目	収入	支出	差額（繰越金）
H26年度 決算	一般会計	30,847,413	26,972,746	3,874,667
	研修事業会計	9,857,533	8,977,263	880,270
H27年度 予算	一般会計	29,189,667	29,189,667	0
	研修事業会計	8,217,270	8,217,270	0

寧に説明して理解して欲しい」とい
う意向により、準備を重ねた成果だ。

前年対比で削減された役員・理事
等交通費の算出根拠の明示や、役員構
成に関する質問がなされたが、いずれ
も丁寧な回答を行い、すべての議案が
承認された。全体としても、どの議
事についても丁寧な報告・提案・説
明があり、高P連のめざす姿勢を体
現した定期総会となった。

事務局移転

8月に事務局
が移転。

これまでの「神之木台分館」は、
耐震性の問題で使用不可となった。
神之木台は春の桜が見事だったが、
今度は港の見えるこの場所から、高
P連の新たな歴史が刻まれる。

〒231-0023

横浜市中区山下町2番地

産業貿易センタービル9F

予定者研修

理事校／交通担当校むけ
今年度よりガイドブックを導入

今年度の高P連地区協議会理事校
の理事予定者研修が、平成27年6月
6日（土）に実施された。これは当
該年度の理事校のPTA会長、校長、
学校書記教諭等を対象に例年実施さ
れている。前年度の理事も同席して
のフレンドリーな雰囲気の中、今年
度からガイドブックを用意して、研
修の理解度を高めると共に、不明な
点があった場合、直ぐに聞いて確認
できるようにしたい、との思いから
だ。

同日時間帯を変えて行われた交通
担当校の予定者研修でも、専用のガ
イドブックを用意した。特に交通担
当校の資料では、現在の「スタート
かながわ」に至るまでの「3ない運
動」からの変遷や「スクエアドスト
レート」の解説など、他では得難い
資料も多く盛り込んだ。提出書類に
関しても、様式や締切日が一覧でわ
かるようにした。今後もガイドブッ
クは改善を重ね、よりわかり易い予
定者研修を目指す。



「大会の評価は、発表の内容と講演者次第である。それゆえ選考や調整に手をかけた効果が出た。」

平成27年11月18日(水)パシフィコ横浜会議センターにて約800名が参加して開催された、第53回神奈川県立高等学校PTA連合会大会。希に見る高評価を得た理由について、津坂研修委員長は、そう分析する。

発表校3校は、地区大会の発表内容から、慎重に選定した。いずれも発表のパフォーマンスのみならず、他校の参考となる活動を行っている点を重視した。講師選びも慎重を極めた。今回の講演は特別好評であったが、それは単に「講師が当たった」ということではない。事前にリストアップした12名の候補者に対して、講演内容にふさわしい3つのテーマのほか、費用や日程などの詳細な項目を検討した結果の帰結である。

高P連として、今回特に意識したのは「高校生に特化したテーマ」という点だ。そこで高校卒業後の子ども



大島 武 講師「コミュニケーション再考 ～もっとわかり合うために」

もたちをテーマに話せる方を選考条件とした結果、トップ候補となったのが、今回の大島武 東京工芸大学教授(故大島渚監督のご子息)である。

大会後の情報交換会についても、「参加費は単P会計から出る学校もあれば、自己負担のところもある。それゆえしっかりした情報交換の場となるようにした。グループ分けにも同一地区の会長が重ならないようにした」と配慮をにじませた。

近年地区大会の運営レベルが高まっており、高P連らしい運営には今後も慎重かつ十分な準備が不可欠だ。

参加者の声

- ・たいへん良かった、申し分ない。
- ・内容が良かっただけに土日開催で、多くの方が参加できるようにしてほしい。
- ・講演は今までで一番良かった。同じ先生でいいのでまた聴きたい。
- ・発表後は講評が長い、無くてもいい。それより質疑応答に時間を割いてほしい。
- ・発表校を減らして、質疑応答の時間を増やしてほしい。

(当日のアンケートより)

旭高等学校PTA

『親子で輝く旭高校
～5年後のための第一歩～』



子どもから学校のお便りが届かないという問題意識を出発点にして「CoCoメール」を導入。画像やPDFファイルの添付、出欠確認など双方向でコミュニケーションを活発にする取り組みをしている。総会で1年間の行事をスライドで紹介し、卒業生から話を聴く機会を設けたりするなど出席率を上げる工夫は参考になる。5年後に向けて年度毎の目標を立て、親子で楽しむ学校生活の実現を目指している。

座間高等学校PTA

『あいほ、勝つ!!』

毎年藍の栽培を畑作りから始め、PTAOBの協力も得て『藍染め教室』を開催。地域教室『まなび塾 in 座間』や藍を通じての他校との連携などは今後の展開が期待される。本部役員に男性が多い事も注目される。



委員会活動自体は他校と特別違うわけではないが、印象的なのは必ず保護者が学ぶ場が提供されていること。役員への立候補など保護者のPTA活動に対する関心の高さが感じられる。

橋本高等学校PTA

『進化するPTA活動』を橋本から
世界へ!～武道大会において～

従来の本部中心の活動を改め本年度から実行委員会を設置した。交通事情の悪化を鑑み、交通安全委員会を常置委員会とした。大切にしているのは、保護者や生徒に望まれる活動を行うこと。会員からの問題提起を分析し、ひとつひとつ具体的なアイデアを起こしている。全校武道大会でのけんちんうどん(こて麺)作り、生徒会と年2回の意見交換、生徒のデザインによる学校マスコットを作成など様々な取り組みをしている。



研修大会

高P連のイベントの中で最も多くの参加者を集めると同時に、年度初めに開催されるのがこの大会である。初めて委員長や本部役員になった方にとっては唯一にして最大の情報収集の場であり、高P連としても重要な大会と位置付けている。そこで年々変化するPTA組織への要望に対応すべく、研修大会も変革を重ねている。その手始めが昨年の「弁当を分科会のテーブルで」というものであった。これは発表した時の動揺に比して、結果はたいへん好評で、発案者の大石副会長は、自身が参加する側だった時の経験から発想したと言う。『声の大きい人の発言だけが目立ち、聞いたかったことを言い出せない状況もある。地域差や個々の状況の違いもあるので、パーソナリティを共有してからの情報交換が不可欠だと感じた。』

今年度はさらに大きく手を加え、分科会ごとに講師を迎えて実施した。実際の運営を司った、津坂研修委員長は「PTA活動により役立つ研修となるように新しい試みを実施した。多少戸惑った感もあるが大方好評だった。分科会ごとの講演会形式初回ということを考えればまずまずの結果だった」と総括したうえで、詳細については次のように振り返る。

一実施しての評価は？

好評だったのは広報分科会。また

実施日：平成27年7月4日(土)

会場：パシフィコ横浜会議センター 参加者：約1,000名

分科会	講演テーマ	講師
第1分科会 副会長	子どもたちが犯罪に巻き込まれないためには	阿部 敏子 氏 県警本部少年育成課 少年相談・保護センター所長
第2分科会 書記		
第3分科会 会計		
第4分科会 学年・学級委員	心豊かな子どもを育てるために	池野 憲男 氏 広島大学教授
第5分科会 成人委員	イベントの組み方	滝野 孝子 氏 (公財)横浜観光コンベンション・ビューロー 広報プロモーション課
第6分科会 環境・校外委員	スマホとSNSの時代で高校生とネットのあり方は	桑崎 剛 氏 安心ネットづくり促進協議会 特別会員 兵庫県立大学環境人間学部客員研究員
第7分科会 ふれあい活動担当委員		
第8分科会 交通安全担当委員		
第9分科会 広報委員	感動を与える広報紙作成のこつ	吉村 潔 氏 (公財)日本広報協会広報アドバイザー

はじめて役員や委員になったという参加者からの評価も高かった。

広報に関しては、内容が参加者の活動と直結していることが好評の要因。

一それに対して、要改善点として見えてきた部分はどうか？

広報以外は単位PTAの活動にどう活かすかが不明確という声があった。聴講する内容(分科会)を選ばせてほしいという意見も。分科会構成についても再検討が必要だ。この点では以前から課題に挙がっている、グループ人数が多く話し合いがしづらい、という点はまだまだ改善できていない。さらに検討を重ねたい。

分科会の構成に関しては、前出の大石副会長も、今回「本部」という括り方をしたことについて『書記・会計はその業務以外に、本部役員としての活動の比率も大きい。会長の補佐役として問題意識と情報を共有してもらいたかった。その意図が事前に十分に伝えられなかった点は残念だ。書記や会計はその業務の基本の研修に対するニーズも高かった』と当初の狙いと見えてきた課題を語る。

広報分科会に見る大きな成果と、見えてきた課題。次年度に向けてさらなる改善をすべく、高P連は既に動き出している。



参加者の声

- ・分科会で他校の方と話ができて有意義だった。
- ・他校の同じ委員会の方と情報交換して、活動意欲がわいた。
- ・1グループの人数が多い。距離が離れていて話が聞こえにくい。
- ・同じ名称の委員会でも学校によって役割が違う点も考慮してほしい。
- ・分科会のテーマが難しい。
- ・PTA活動への落とし込みが考えにくい。

(当日のアンケートより)

広報大会

1月27日（水）横浜市教育会館にて広報大会が開催された。昨年度まで広報紙コンクール表彰式として実施していたものを、参加するすべての広報委員にとって意義深いものとするべく、大会名称を変更した。内容も一新し、7月の研修大会でのアンケート結果を反映し、受賞校へのインタビューやパネルディスカッションを通じて、実際の広報紙作成に役立つ内容の提供を、最大の目的とした。審査委員長の神奈川新聞社岡部整理部長による講評にパワーポイントを導入したのも同じ理由による。受賞紙の評価されたポイントを実際の画像を見ながらの解説は、参加者

ニーズに応じて内容を新たに作りよき広報紙づくりを応援

から大変好評であった。しかし多くの参加者の関心を集めたのは、やはり受賞校の生の声だ。2年連続での最優秀賞受賞となった横須賀高校広報委員会のハードワークぶりには、コンクール常連校ならではの並々ならぬ意気込みが感じられた。アンケート集計に利用するフリーソフトや、作業効率を高めるためにデータをクラウドで共有するといった他校の参考になる手法も披露された。

後半のパネルディスカッションでは、現場の生の声を伝えることで、各校広報委員会が共通して抱える課題に具体的な解決策を提供した。初めての試みであったが、パネラーと

なった新設3賞の受賞校、横浜栄高校（写真賞）、海老名高校（企画賞）、高浜高校（編集賞）の広報委員からは興味深い話が聞かれた。会場からは積極的な質問も飛び出し、活発な意見交換が行われた。

終了後のアンケートでは「受賞紙への講評が丁寧でわかりやすかった」「研修的な内容が盛り込まれており勉強になった」「受賞校の生の声が聴け、大変参考になった」など多くの好意的な意見が寄せられた。

研修大会、広報紙コンクールとも連携した一連の広報委員会支援事業は、一定の評価を得て終了することができた。しかし多くの広報委員の声に応じていく試みは、まだ始まったばかり。高P連の調査広報委員会はさらなる改革を計画している。



受賞校

最優秀賞
横須賀高等学校

優秀賞

神奈川新聞社賞	市ヶ尾高等学校
神奈川県教育委員会教育長賞	座間高等学校
神奈川県立高等学校長会賞	神奈川総合高等学校
神奈川県立高等学校安全振興会賞	横浜国際高等学校

奨励賞

多摩高等学校	七里ガ浜高等学校	大船高等学校	秦野高等学校	平塚中等教育学校
--------	----------	--------	--------	----------

安全振興会写真賞
愛川高等学校

写真賞 横浜栄高等学校	企画賞 海老名高等学校	編集賞 高浜高等学校
-----------------------	-----------------------	----------------------

最優秀賞の横須賀高等学校の広報委員の方に掲げていただきました。おめでとうございます。

広報紙コンクール

「一冊一冊じっくり読みたくなる」「時代のトピックスを丁寧に取り入れている」「数多くの情報をうまくまとめる技術の高さ」審査委員の声が示すように、第39回広報紙コンクールの審査は、例年以上に手応えを感じるものとなった。また今年度から、従来の広報紙の表彰を一部見直すと共に、新たに「写真賞」「企画賞」「編集賞」を設けた。

7月4日に実施された研修大会アンケート結果を参考に見直しを行い、写真、企画、編集という広報紙を作る上でポイントとなる3つにスポットを当て、深く掘り下げていくことで、各校広報委員の課題を具体的に解決したいという思いからの新設である。3賞の初受賞となった各校に評価された点を振り返ってもらった。

写真賞：横浜栄高校「綱引きの写真は横長になりがち。生徒の生き生きとした表情を伝えたいと思い、正

面から捉えた写真を組み合わせた。」

企画賞：海老名高校「初めから活動に積極的だったわけではない自分たちだからこそ訊いてみたい、と思う内容をPTAアンケートという企画に反映させた。」

編集賞：高浜高校「海が近いという立地条件による災害への危機意識の高まりから、特集の別紙付録化を発想した。」

なお、昨年に続き最優秀賞となった横須賀高校の他、優秀賞、奨励賞の受賞校は上の通り。

健全育成大会

バラエティーに富む発表内容
講演は白井勝晃氏

1月30日（土）横浜市教育会館にて健全育成大会が開催された。神奈川県10地区の交通安全高校生・PTA大会で発表された単位PTAの交通安全研究の中から、秦野曾屋高校と湘南高校が当大会で発表した。秦野曾屋高校のテーマは『事故のない安心・安全な登下校の継続を』で、学校周辺の危険箇所の綿密な調査と地域と協力した「防犯協力の家」制度など、数々の取り組みが発表された。なかでも自転車保険の加入率向上のための取り組みは、大変さが伝わった。

湘南高校のテーマは『芭蕉、平成を歩く』。時乗校長扮する松尾芭蕉と、



演劇部の生徒達が演じるその弟子が現代の湘南高校通学路にタイムスリップする設定の寸劇を軸に展開。そこに保護者アンケートの発表、警察のデータや佐川急便のドライバーのインタビューなどを挟む多面的な構成で、日頃の活発な活動を伺わせる内容であった。自転車の反射シールとセイフティカードの生徒への配布など他校の参考になると思われる。寸劇では会場でも笑いが起こるほど楽しい発表となった。

両校ともそれぞれの通学環境をとらえ、生徒の安全を守る活動が活発に行われていることをうかがわせた。閉会後にも発表校が質問されている光景が見られ、大会趣旨を反映した発表であった。

同大会はその他、事例発表に先立って講演が行われた。講師は体操の白井健三君（岸根高校卒）の父、白井勝晃氏。また、事例発表後には神奈川県警から子供を取り巻く環境



大会終了後にも質問を受ける秦野曾屋高校

についての情報提供がなされた。前日には積雪も予想されたが、当日は交通機関の乱れもなく約400名が参加し、盛会のうちに幕を閉じた。

参加者の声

- ・おもしろかったです。高校にきたらPTAは消極的な話ばかりでしたが、来てよかったです。
- ・事例発表・講演はすばらしく今回はもう少し時間がほしかったように思われます。
- ・他校の取り組みを知るチャンスは貴重です。
- ・時間に追われる感じがあり早口になって聞き取りにくい時があったのが残念。プログラムを見直して欲しい。

（当日のアンケートより）

第65回 全国大会 岩手大会

第65回全国大会 岩手大会が、平成27年8月20日・21日の日程で開催された。全国より約1万人の参加者が集った開会式の後、6つの会場に分かれて分科会が開催された。このうち第3分科会では、神奈川県代表の鶴嶺高校による「伝統行事継承に向けた取り組み～自分で浴衣を着られるように～」の発表が行われた。太田会長は「本校創設以来41年間途切れることなく紡いできたこの伝統行事を通して、本校の特色を全国にアピールすることができ、大変有意



義な大会となった。」と振り返った。

第61回 関東大会 茨城大会

第61回関東地区高等学校PTA連合会大会茨城大会では平成27年7月9日開催の第1分科会（「学校教育とPTA」）において、生田高校が神奈川県代表として発表した。

「『a i プロジェクト』を生田から世界へ！」と題し、地域の自治会、大学、小中学校、市バス等多くの関係機関との連携事業、協力体制が生まれるまでの活動についての発表が行われた。発表の際、生田高校内藤会長は、「川崎地区から神奈川県、そして世界にa iが広がってくれる事を願って発表した」と語った。



編集後記

- ★限られた人員や予算でつくらなければならない広報紙。日々頑張っている全ての委員さんに拍手！（岡田）
- ★「手に取って読みたいくなる広報紙」

を目指し紙面一新。新たに生み出す大変さと、楽しさを味わいました。（位田）
★昭和35年1月23日に「県立高校PTA」が創刊されてから56年。今回は装いを新たにしました。（後藤）
★限られたスペースの中で何をどう伝えようか言葉を選びながら、振り

返えれば楽しい1年でした。（鈴木）
★より良い会報紙を目指しリニューアル！自らハードルを上げたため、委員会回数倍増でした（笑）（中野）
★最後になって色々集中しすぎたことに×。とはいえ仲間に恵まれ何とか発行できたことには○。（山下）

教育委員会の掲示板

「かながわ教育ビジョン」 一部改定

本県の教育の総合的な指針となる「かながわ教育ビジョン」について、策定後の社会状況の変化等に対応するため、県民の方々との論議等を行い、平成27年10月に、第4章・第5章について改定しました。今後、一人ひとりの「生涯にわたる自分づくり」と県民の皆様との協働・連携による「生涯を通じた人づくり」を推進してまいりますので、PTAの皆様の一層のご理解とご参加をお願いします。

かながわ教育ビジョン

検索

寄附のお願い 「まなびや基金」「奨学金基金」

①まなびや基金は、より一層快適な学びの場を提供するため、県立学校等のトイレの洋式化など、教育環境の整備に活用しています。

②奨学金基金は、学資を必要とする高校生等の奨学金の貸し付けに活用しています。

皆さんのご協力をお願いします。
※詳しくは「神奈川県まなびや基金」、「神奈川県奨学金基金」各ホームページをご覧ください。

【問い合わせ】

県教育委員会財務課
電話①(045)210-8105
②(045)210-8251

スマートフォン等の適切な 使用について

県教育委員会の調査によれば、県内公立高校生の約9割がスマートフォンを所持していますが、スマートフォン等でのインターネット利用についてのルールがある家庭は約4分の1となっています。また、SNS等の不適切な利用によるトラブルが増加しています。これらのトラブルを未然に防止するために、フィルタリングの

設定や、スマートフォン等の使用に関するルールやマナーについて、ご家庭での話し合いをお願いします。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f300473/>

かながわ部活ドリームプラン21 versionⅢ

県では、「自主的・自発的な部活動を通じた人づくり」を基本方針に、「参加した誰もが満足できる部活動」と「より多くの生徒が参加できる部活動」をねらいとした部活動活性化推進計画「かながわ部活ドリームプラン21 versionⅢ」により、「環境整備の推進」「指導體制の充実」「参加促進」の観点から様々な施策・事業に取り組んでいます。一人でも多くの生徒が、充実した部活動を経験できるよう学校・家庭・地域・行政が一体となって取組を進めていきます。

かながわハイスクール 人材バンクに登録しませんか

県教育委員会では、民間企業等で培われた知識や経験等を県立高校の教育活動に活かしていただくことで、学校の教育力の向上と教育支援の充実を図るため、標記事業を実施しています。資格の有無に関わらず、教育に熱意のある県民の方々にご登録いただき、学校において講演会等の講師として、あるいは学習や就職・進路指導等の面での生徒の支援等にご協力いただく制度です。
ぜひ、ご登録ください。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f532375/>

生涯学習のサポートを いたします！

県生涯学習情報システム「PLANETかながわ」では、「講座・イベント情報」「施設情報」「指導者・人材情報」「団体・グループ情報」等の生涯学習情報を検索できます。

また、県立図書館新館1階の生涯学習サポートコーナーでは、生涯学習に関する資料（大学講座・催し物・施設案内・ボランティア等）の提供、PCによる検索や相談員への学習相談をご利用いただけます。

【問い合わせ】

県立図書館生涯学習サポート課
電話 (045)263-5916

PLANETかながわ

検索

サンマルサンサン 3033運動

県では、健康で明るく豊かな生活を送るために、1日30分、週3回、3ヶ月間継続して運動やスポーツを行い、くらしの一部として習慣化する「3033運動」を推進しています。毎日忙しく、運動する時間や機会の少ない方でも無理なくできる「チャレンジ階段のぼり」「イキイキ大また歩き」「スッキリスキマストレッチ」の3つの運動を紹介しています。

「3033運動」で健康寿命日本一をめざしましょう!!

詳しくはホームページにアクセス!

3033運動で健康寿命日本一

検索

「いじめ110番、不登校 ほっとライン」のご案内

県立総合教育センターでは、いじめや不登校等に関する様々な悩みやお問い合わせに応じています。

【いじめ110番（電話相談）】

電話 (0466)81-8111
24時間365日受付

※ 4月1日より「24時間子どもSOSダイヤル」に名称を変更

【不登校ほっとライン（電話相談）】

電話 (0466)81-0185

月曜日～金曜日 8:30～21:00
土・日・祝休日 8:30～17:15
(12月29日～1月3日を除く)